

WEFニューオリンズにおける 海外研究発表

前資源循環研究部
総括主任研究員
佐藤 博司



WEFTEC2010

Water Environment Federation (WEF) 主催の第83回 WEFTEC2010 (Annual WEF Technical Exhibition and Conference) が2010年10月2日～6日の5日間で米国ニューオリンズのMoria Convention Centerで開催され、研究発表および情報収集を目的に、10月3日から6日まで参加してきました。

WEFTEC2010は、17,000人を超える参加者、35のワークショップ、112のテクニカルセッション、9のファシリティ・ツアー、展示会には984の企業が出展する大規模なイベントでした。



オープニングセレモニーの様子



亜臨界水処理について発表

「亜臨界水処理を用いた下水汚泥のエネルギー転換および減量化に関する研究」について、口頭発表を行ってきました。セッション会場には40名を超える人が参加し、発表後の質疑も活発に行われ、また休憩時間での意見交換もあり、亜臨界水処理を用いた汚泥減量化への関心の高さを感じました。

口頭発表者は、セッションの他の発表者とともに、事前にモデレータとReady Roomでブリーフィングの機会があります。そこでモデレータからセッションの進行方法の説明を受けるとともに、モデレータに口頭発表者の略歴などを説明します。発表を円滑に進めるためには、モデレータとのブリーフィングでの事前調整がポイントです。またReady RoomのPC端末を使っていつでもプレゼンテーションPPTの修正が可能



口頭発表の状況

なシステムとなっており、セッションの直前まで十分な準備をすることができました。

下水道機構からは他に、研究第二部の井藤主任研究員による「伏せ越し管内における圧縮空気塊の挙動の解明」の口頭発表、研究第二部の田村研究員による「らせん案内式ドロップシャフトに関する研究」のポスター発表がありました。



984社が出展する展示会

世界984社の企業が出展するという大規模な展示会でした。日本企業は、日本工営、積水化学工業、カナフレックス、三菱電機、安川電機、TORAY、鶴見ポンプ、日立アメリカなどが出展していました。GCUSブースでは、模型による水面制御のデモンストレーションが行われており、多くの来場者の関心を惹いていました。



下水道グローバルセンター (GCUS) ブースの様子